

1. 研究の目的と方法

近年都市域では、経済性・合理性という価値観に基づく急進的な開発が進められる一方で、失われゆく重要な文化資産でもある、都市景観を保全（維持・強調）していく必要性が唱えられている。これら2つの要望を調停するために、法的な秩序原理を与える都市計画の果たすべき役割は大きく、その先進的な事例を調査・分析することは、常に基本的な課題の1つである。

本稿では、我が国の都市計画制度がその要所で範を取ってきた米国において、全米一美しいと詠われる都市景観の保全と、全米的に景気後退期にある現在にも活気を失わない安定した都市経済とを同時に維持し続けている¹⁾といわれる、カリフォルニア州・サンフランシスコ市（City and County of San Francisco）のゾーニング制に関連した都市計画法規を対象とした。

関連する既往研究には、特徴的な都市デザイン手法について示した倉田の報告²⁾や、全米的視野からデザイン手法を紹介した J. バーネットの著作³⁾、成長管理政策の展開に関する大野らの研究⁴⁾や開発制御に関する東京都の報告⁵⁾等があるが、これらに対して本稿は、「マスター・プラン」、「ゾーニング・コード」、「ゾーニング・マップ」の3法規を分析資料とし、景観保全にかかわる制度の全体構成を捉え、その相互関係の分析を試みたものである。

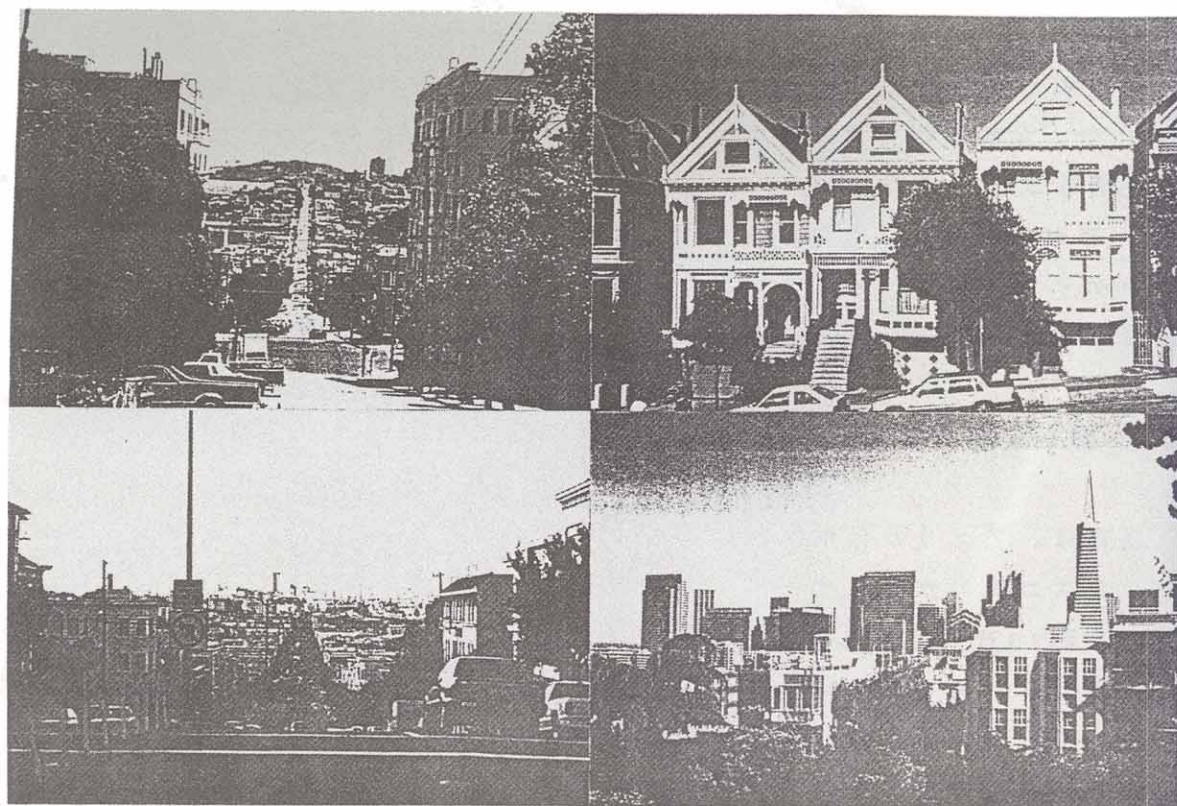
2. 都市景観の概要

当市は、アメリカ合衆国西岸に面するカリフォルニア州のほぼ中央、サンフランシスコ湾の水面に突き出す半島の突端に位置する。面積約120平方キロ、人口は約73万人である。市域は丘陵地帯に属しており、街路網はその40以上の丘の上に、異なる軸線を持つ2つの直交格子がマーケット通りで接する形で敷かれている。多くのランドマークや公園が存在し、坂の街として変化に富む都市景観を生み出している。代表的な建築景観としては、1960年代以降相継いで建てられた都心部の高層ビル群と、1920年代以前に建てられた居住地域のビクトリアン・スタイルと呼ばれる木造低層住宅群が挙げられる。(図-1)

▼ (図 - 1) サンフランシスコ市の位置と代表的な都市景観



サンフランシスコ市の位置



市の代表的な都市景観

丘を跨いで伸びる街路／ビクトリアン・スタイルの家屋
都心部に向かう街路／都心部の高層オフィスビル群